

「知の拠点」 公立図書館に光

世論が力 国の予算増



小学校の図書館＝東京都内

減少が続いていた公立図書館の予算が、2011年度は増加しました。また、学校図書館への学校司書配置を来年度から国が措置します。図書館にどういふ変化が起こっているのか。日本図書館協会事務局長の松岡要さんに聞きました。

(細野孝明)

この十数年、公立図書館予算は減り続けています。1999年に国は図書館の施設建設、設備整備の国庫補助金交付をなくしました。それ以降全国の公立図書館決算額は減り続けています。図書は十分購入できず、資料費は当時の8割台に減少しています。職員数は3割近く減る一方、非正規職員が増え、いまや職員の6割以上を占めるまでに至っています。

自治体を支援

そんな中で政府は、10年度補正予算で、住民生活に必要でありながら光が十分に当てられなかった分野への自治体の取り組みを支援する趣旨の交付金(いわゆる「光交付金」)を設けました。各自治体から積

日本図書館協会事務局長

松岡 要さんに聞く



から地方交付税に切り替へる長年にわたる「学校えられました。同時に交「図書館に人を」の運動の付税の公立図書館の算定 反映です。予算は150基を改善し、図書館職 億円で、「小中学校約1員を増員措置をしました。万4300校に学校司書(標準規模の道府県27人、(時給1000円、年35人、市町村7人)8週、週5日、1日6時間)を配置できる規模(文科からの3年間、司書や、部科学)です。蔵書整備体制の充実など「知の蓄積等による地域に全小中学校に配置され「くり」を対象とした特別交付税も措置されています。

専門職員必要

図書館は「知の拠点」への配置が促進されることといわれます。本好きの人が利用するだけでなく、そこに「行けば知りた

充実の論議を

い、調べたいさまざまな 交付税を実際どう使 ことに応える資料や情報 うかは、最終的に自治体 があった、その利用を案 断です。いま各地で 職員「司書がいるとこ 来年度予算を決める議 会

極的な図書館予算申請が 出され、予定された36 0億円を上回る結果にな ったようです。一番多く 使われたのは図書購入な ど資料整備でした。ここ 10年ほどの間で初めて資 料整備の予算が前年度を 上回りました。

この交付金は、11年度

その場で注目したいのが図書館を充実させる論 は政府が、12年度に小中 議をせひしていただいた 学校図書館への職員(学 校司書)配置の措置を決 付税措置を生かし、予算 増やし、図書館サービ スを充実させるチャン ス

司書配置・蔵書充実

小中学校にチャンス

にしてほしいと願って います。